

総合的な学習の時間の実践

留萌市

世界のために私たちのできる限りの努力をしたい

総合的な学習

6年

「世界のために今、私たちにできること」

単元の概要 と 単元構成

6年生ともなると、遠く離れた世界で起きている様々な出来事に、少しずつ関心を示します。身近な行動ではユニセフ募金でした。そのために、お金を得る手段を考え、募金活動を行いました。「自分たちにできること」の意味を問い直し、日本から見た世界を考えるきっかけづくりにしました。働いてお金を得るために、教材園を利用し野菜づくりを始めます。この活動は、PTA、全校児童にも広がった大きな取り組みとなりました。

学習活動の流れ（60 時間）

日本と後進国との大きな経済・教育・生活などの差を認識させます。

連休や夏休みなど自主的に除草・水やりを行い畑を管理することを怠らず、目的をもった取り組みができました。

収穫物を丁寧に扱う子どもたちと活動を理解し温かく見守る保護者の方々とのふれ合いが印象的でした。

募金していただいた方々の善意を自分たちが責任をもって届けることで気持ちの重みを知ることができました。

世界のことを知ろう(5)

- ・世界に心をとばせ！

クラスでできることを話し合う(10)

- ・後進国や災害被災国などに対してできることは？
- ・作物を決め、管理体制などを話し合う

後進国について情報を収集しよう(25)

- ・各班に分かれ、世界の現状を詳細に調べる
- ・活動を振り返り、計画を見直そう

募金・広報活動を始めよう(10)

- ・収穫した作物を校内バザーに持ち込み販売する
- ・収益金は、自分たちの手で届けよう

自分たちのできる限りの努力について振り返ろう(10)

- ・これまでの活動内容をすべて振り返り、まとめ伝えよう
- ・報告会を開こう

保護者、職員、全校児童などの善意のお金を直接ユニセフ協会に届けました。修学旅行の行程の中にその活動を位置づけたのです。子どもたちは、集まったお金の重さとひとり一人の善意の気持ちの重さを感じながら、届けることができました。



どんな活動が？

教材・活動の Point!

1. 世界の現状……、自分たちにできることは？

後進国の現状を知ると、自分たちとのあまりの生活水準の落差に驚嘆していました。そこから子どもたちの「自分たちには何ができないのだろうか」という気持ちが芽生えたのです。話し合いを何時間も重ねてきた結論が「野菜づくりをして募金をする」でした。自分たちも汗をながさなければ意味がないのではないか？というのが子どもたちの想いでした。

2. 課題は一つ一つ解決して

販売場所は？畑の管理は？クラスだけでいいの？活動を始めするには、解決しなければならない課題が山積していました。まずは、作物。作りたい物ではなく確実に収穫できるものは何か？時期は大丈夫か？また、どこで販売するいいのか？結論は校内バザーです。子どもたちは、まわりの方々にも広く伝えたいという気持ちをもっていました。



3. テーマを最後まで忘れずに

子どもたちが見失わなかったことは、「目的」や「相手」です。「できる限りの努力をしたい」という子どもたちが決めた大きなテーマから一度も逸脱するような言動もなく、ただ前向きに取り組んだ子どもたちの大きな成長を見取ることができました。

